



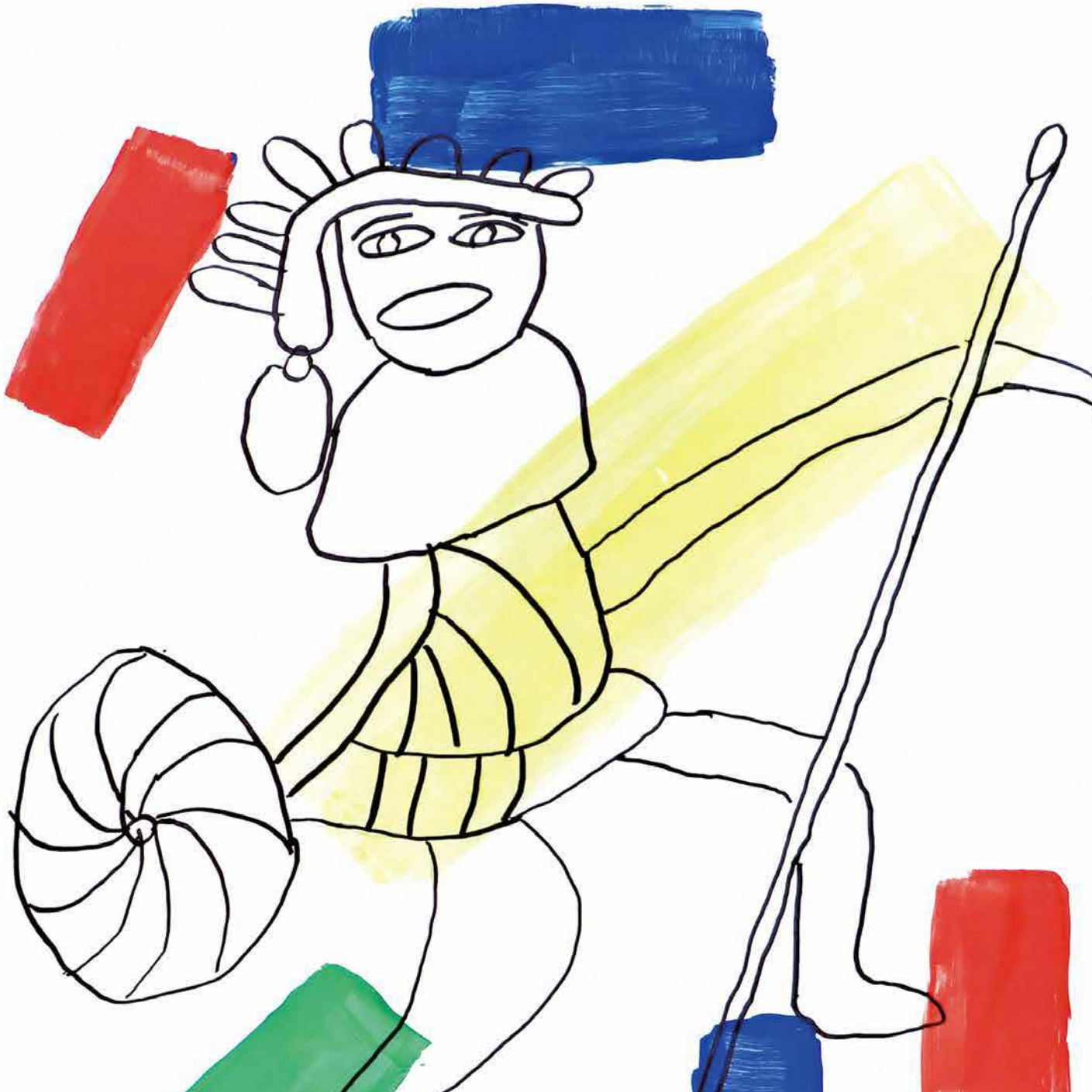
みなさんの暮らしと
つながっています。

Vol.73

令和6年(2024年)

5月1日発行

はまた 議会だより





3月定例会議

今回はこれがポイント!

令和6年度一般会計予算391億4千万円を慎重審議し可決!

3月定例会議では、市長から令和6年度の施政方針が示されました。議案の中で特に注目されたのは、浜田市生活路線バス条例の一部改正、財産の無償譲渡、副市長の選任および教育長の任命などが挙げられます。

予算決算委員会では、708事業からなる一般会計をはじめ、国民健康保険などの特別会計や上下水道事業などの公営企業会計の予算を審査しました。中でも「石見神楽伝承内容検討事業」は、予算可決後において、議会として執行部に対して予算執行における配慮すべき4項目において附帯決議を可決しました。附帯決議の内容は4ページに記載しております。

以下に議会の視点とともに注目した10の事業を紹介します。また、追加として令和6年度一般会計補正予算も提出され防災備蓄食料品などの追加やプレミアム付「はまだ応援チケット」第4弾発行に伴う事業費を可決しました。



▶ まちづくり 地区サポーター 設置事業

事業費:1,922万円

国の集落支援員制度を活用し、地区まちづくり推進委員会が取り組む事業を持続的に実施していくため、きめ細かな支援を行う地区サポーターを試行的に設置し、事務支援などを行う。

着眼点 地区まちづくり推進委員会が取り組む事業の支援および事務支援を行う人材の確保により、地域の自立的な活動を促進し行政の手が届きにくい部分をサポートする新たな取組で、住民主体のまちづくりが進むことに期待。



▶ 持続可能なまちづくり 協働推進事業

事業費:679万円

まちづくりフォーラムや市民団体が実施する社会貢献・人材育成・芸術文化振興・生活支援に関する事業に対する補助を行い、市民や企業、まちづくり活動団体などの協働のまちづくりの推進を図る。

着眼点 高齢者の草刈り支援など地域全体での協力体制の構築に必要な地区まちづくり推進委員会とボランティア団体の設立につながる支援策を通じて、住み慣れた地域における高齢者の日常生活の助けとなるのか注視していく。



▶ 歴史文化 橋本明治 生誕120年 記念展事業

事業費:350万円

若くして法隆寺金堂壁画模写の主任。その後、日本芸術院賞や文化勲章を受けられた浜田市名誉市民である画伯の作品などを紹介する企画展を節目の年に開催して功績を顕彰するとともに浜田市世界こども美術館の誘客につなげる。

着眼点 画伯の収蔵作品の他、ご遺族から新たに提供いただいたスケッチや写真などを活用して、作品が出来上がるまでの過程や作品完成に至るまでの努力の跡を紹介する。記念展示会期は令和6年6月1日から7月7日までの予定。



▶ 伝統文化継承 石見神楽 伝承内容 検討事業

事業費:652万円

平成8年に市の観光振興ビジョンの中で石見神楽の伝承・拠点づくりを掲げた。その後、日本遺産に認定された「石見神楽」の保存・伝承および市民や観光客などに知ってもらうための情報発信の内容や機能・手法を検討する。

着眼点 学識者・神楽団体・神楽産業従事者・歴史研究団体などからなる専門委員会を立ち上げ伝承内容を検討する。業務委託して情報発信や機能・手法などの検討、石見神楽振興議員連盟や他の関係団体との協議を経て内容をまとめる。



▶ 地域医療

医師確保 対策事業

事業費：95万円

地域医療体制確保のため総合診療医を育成する。

着眼点

福祉環境委員会視察時の島根大学医学部附属病院総合診療医センターとの意見交換会でも、浜田市における医療人材の育成や定着に関する課題、総合診療医の必要性などについて議論している。予算規模を増額してでも地域医療体制の充実を求める意見もあり、この事業が市の医療サービスの質の向上と持続可能な地域医療体制の確保につながることを期待。



▶ 高齢者福祉

在宅介護 支援事業

事業費：841万円

地域の高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、条件不利地域への訪問看護サービスの利用拡大のための助成、訪問入浴介護事業を行う事業者に対する助成などを行う。

着眼点

訪問入浴介護事業の継続が困難となった事業所に対し、赤字補填のための補助金を交付することとした背景がある。利用者からの声や事業所の人材不足など事業の持続可能性に着目。



▶ 観光振興

美又地域 再開発事業

事業費：9億7,540万円
(令和6年度は5,690万円)

老朽化した美又温泉国民保養センター内の休養ホームなどの跡地にアルカリ性の泉質を活かした日帰り入浴施設を令和7年度に向けて建設を予定している。令和6年度は建設に向けて地盤調査や施設の詳細な設計業務が実施される。

着眼点

温泉総選挙で「うる肌部門」全国1位を獲得した泉質を施設の設計にどのように生かすかが注目。サウナや炭酸風呂、露天風呂と内風呂、建物や施設外観、掛け流しは、温泉水の配管や殺菌方法など利用者の視点での設計に注目。



▶ 地域医療

婦人科 診療開設等 支援事業

事業費：7,200万円

令和6年2月末をもって市内唯一の産婦人科開業医が閉院されたことで、浜田医療センターへの患者の集中が予測される。新たに市内で婦人科を開業または併設するものに対して開設費用の一部を助成する。

着眼点

浜田医療センターで外来の患者数が急増し予約が取りづらくなる事態が危惧されていた。事業を通じ市内の病院に新たに婦人科が併設したことにより、医療の逼迫を避けることができるか注視していく。



▶ 子育て環境改善

公園環境 整備対策事業

事業費：4億4,850万円
(令和6年度は5,810万円)

令和5年3月に策定された「浜田市身近な公園整備基本方針」に基づいて、公園空白地の解消や子ども向け遊具の充実、トイレ環境の改善により、子育てしやすい環境づくりを5年の年次計画で目指す。

着眼点

公園の整備は「はまだ市民一日議会」や請願においても取り上げられ、議会の関係委員会としてもその必要性を認めていた。老朽遊具などの修理や更新、トイレ環境の整備などを59カ所で行うことにより、「子育てしやすいまち」を目指す事業として期待。



▶ 安全対策

防護柵 緊急対策事業

事業費：1億3,000万円
(令和6年度は5,200万円)

他市で発生をした防護柵の腐食による転落事故を受け道路パトロールに併せて緊急点検を実施した結果、経年劣化により修繕が必要な箇所があったため緊急度の高い箇所から修繕を行い、事故の未然防止を図る事業。

着眼点

緊急性の度合いを3段階に分けて早急に修繕が必要とされる緊急度の高い市内36カ所について「ふるさと応援基金」を活用して今年度を実施する。2、3年のうちに修繕が必要な中程度の箇所については令和7年度以降に順次実施となる。

令和6年度浜田市一般会計予算に対し、附帯決議を可決！

令和6年度一般会計予算は、まず、議長を除く全議員で構成される予算決算委員会で事業ごとに詳細な審査を行い採決し、その後、本会議で全議員により採決を行う流れです。

予算決算委員会で審査において、石見神楽伝承内容検討事業について議員間での自由討議を行い、さまざまな議論を重ねました。その結果、一般会計予算を可決する方向になりましたが、附帯決議案を全会一致で予算決算委員会から提出することとなり、3月定例会議最終日の本会議においても、同内容の附帯決議を全会一致で可決しました。

議案第24号 令和6年度浜田市一般会計予算に対する附帯決議の内容【全文】

「議案第24号 令和6年度浜田市一般会計予算」に計上された「石見神楽伝承内容検討事業」651万6千円は、日本遺産に認定された「石見神楽」の保存・伝承及び市民や観光客等多くの方に知ってもらうための情報発信の内容や機能・手法等の検討を目的としたものである。当該事業をめぐっては、予算案の提出において、事業名及び事業内容の変更が複数回なされ、議会の混乱のみならず、市民の混乱を招いた。予算提案は市の政策として、貴重な財源を用いて最大の効果を生む内容を吟味された上でなされるものでなくてはならない。

浜田市議会としては、事業の必要性には理解を示す一方、執行部においては前述の状況を重く受け止め、以下の事項に配慮した予算執行に努めていただくよう強く求めるものである。

- 1 新設される専門部署においてはその目的・役割を明確にし、浜田市議会石見神楽振興議員連盟と連携して効率的かつ効果的な運用を行うこと。
 - 2 石見神楽伝承内容検討専門委員会は十分な議論ができるよう必要回数を設けること。その内容については、浜田市議会石見神楽振興議員連盟が行ったヒアリングによって指摘した項目も参考にすること。
 - 3 石見神楽伝承内容検討業務委託については、石見神楽伝承内容検討専門委員会における協議内容はもちろんのこと、浜田市議会石見神楽振興議員連盟との協議や関係者等からのヒアリングをもって検討事項を明らかにするとともに、議会に対してその説明を適宜行うこと。
 - 4 文化財保存活用地域計画においては、石見神楽の保存・継承に関する事項に触れられ、アクションプランも作成されることとなっている。関連計画等との整合を保持することはもちろんのこと、重複がないよう十分に留意すること。
- 以上、決議する。

※附帯決議とは、議案（予算など）に対して、議会としての意見や要望を表明する決議です。

議案等の賛否の公開

2月臨時会議および3月定例会議で賛否が分かれた議案は以下のとおりです。各議員の賛否や反対理由、請願・陳情審査結果、討論などの詳細は、市議会ホームページをご覧ください。

令和6年2月 ●臨時会議● 市長提出議案2件

令和6年3月 ●定例会議● 市長提出議案37件 議会提出議案3件


議案番号	議案名等	賛成	反対
議案第24号	令和6年度浜田市一般会計予算	18	1 川上
請願第9号	サン・ビレッジ浜田アイススケート場の活用のあり方について、さらに必要な判断材料や分析の検討を求める請願について	18	1 村木

反対
川上 幾雄

議案第24号
令和6年度浜田市一般会計予算

予算に含まれている「県立高校共同寄宿舎運営事業」は、本来県がなすべきであり、加えて、現察の定員内で収まるのに市民生活へ活用可能な予算をもつて寄宿舎を新たに設置する必要はないと、やむなく反対した。

討論とは、会議終了日の表決前に議案などへの賛成・反対意見を表明することです。



請願・陳情について審査しました 請願2件 陳情19件

請願の内容	提出者	結果
サン・ビレッジ浜田アイススケート場の活用のあり方について、さらに必要な判断材料や分析の検討を求める請願について	島根県カーリング協会 代表 野藤 薫 石見スケートクラブ 代表 三島 有紀 浜田スケートクラブ 代表 本田 真弓	採択
郷土資料館の建設場所検討に関する請願について	國分 俊幸 三浦 英俊	継続審査

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

浜田市議会はSDGs(持続可能な開発目標)を推進しています。
質問内容をSDGsの17のゴールで分類しています。

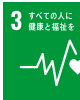


市政を問う

19人が個人一般質問



こちらから動画をご覧ください。



すべての人に健康と福祉を

広域的な医療体制構築を

Q 広域的な医療体制構築を推進するために、市としてどのような取り組みをされているのか、また、今後の見通しについて教えてください。

A コロナ前においては会議の場があったが中断している。今後はこのような場ですっきり話し合うことが必要と考える。

Q 医療センターの事務部長は、浜田市、江津市、医療センター、済生会病院、保健所で連携するために直接的協議の場が必要とのことであったが、市の考えは。

A コロナ前においては会議の場があったが中断している。今後はこのような場ですっきり話し合うことが必要と考える。

Q 数年前にこのことに関して意見を求められ、人口減少が進む中であって連携・役割分担にも取組むべきではないかとの発言をし、現実的に具体的に進めるには県も入っていく必要があると答えた。

A 数年前にこのことに関して意見を求められ、人口減少が進む中であって連携・役割分担にも取組むべきではないかとの発言をし、現実的に具体的に進めるには県も入っていく必要があると答えた。



川上 幾雄

聞き取り困難症 (LiD) への理解と配慮を



相手に聴覚情報処理障害 (APD) 特性を伝えるためのAPDマーク

Q 以前はAPDと言われ使われている「APDマーク」の周知も必要では。本人や保護者の考えもあり慎重な対応が必要。

A 小中学校では生徒の実態などから苦手さ困難さの把握に努めている。

Q 「聞こえるのに聞き取れない」といわれる「聞き取り困難症 (LiD)」は小中高生の1%に症状がみられる。本人も周囲も気が付きにくく、学習への影響の他にじめ・不登校の原因にもなる。現状把握をすべきではないか。

A 小中学校では生徒の実態などから苦手さ困難さの把握に努めている。



小川 稔宏

何より市民の健康づくり、そして介護予防

Q 特定健診の受診期間の延長や特定保健指導を受けられる人を増やす考えは。

A 受診期間の延長は冬季疾患があるため難しい。特定保健指導の終了率は県内8市の中で低いので、保健指導が受けやすくなるよう進めたい。

Q 訪問入浴介護サービスの今後の展望は。

A 市としてサービスが存続されるよう、サービスの赤字を補助し、旭、弥栄地域にもサービスを拡充したい。

Q 特定健診の受診期間の延長や特定保健指導を受けられる人を増やす考えは。

A 受診期間の延長は冬季疾患があるため難しい。特定保健指導の終了率は県内8市の中で低いので、保健指導が受けやすくなるよう進めたい。



芦谷 英夫



すべての人に健康と福祉を

安心して生活できる医療・介護の確保を



柳楽 真智子

Q 市内婦人科医院の閉院に伴い、新たに三隅町の医院で婦人科診療が開設される。中心地から遠く、通院が難しいのでは。

A 着任した医師が毎週火曜日には、熱田町の本院で内科医として勤務する中で、婦人科の診療も行うことができる。

Q 産婦人科に限らず他の診療科でも不足が心配される。長期的な展望を踏まえた対応が必要では。

A 国保診療所の医師も心配しており、今後の一次医療の提供体制の推移と自分たちの役割について、レポートを作成し検討することも必要である。

(その他の質問項目)

- ・ 带状疱疹ワクチン助成
- ・ 訪問入浴介護事業廃止とその撤回の経緯



質の高い教育をみんなに

施設整備は時間をかけ慎重な議論を



佐々木 豊治

Q 今回、三桜酒造跡地を活用し、多目的ホールと屋外広場を整備、また石見神楽伝承館と郷土資料館を併設した施設も候補地の一つの方針が示された。活用検討会の提言は「買い取った場合の活用策」で「買い取るかどうかの議論」はどつするの。

A 土地開発公社で先行取得し市が買い取る債務負担を設定している。駅周辺のにぎわいづくりの計画も進めながら検討する。

Q 大きな事業が一度に示されたと思う。施設整備は市民理解を含め慎重な進め方が必要では。

A 議会とも意見交換しながら進めていく。

(その他の質問項目)

- ・ アイススケート場は広域で支えられないか



産業と技術革新の基盤をつくろう

高度衛生管理型荷捌所の市民理解の促進を



大谷 学

Q 国・県・市の整備費用の負担額は？

A 総事業費は65億6千万円。国が3分の2の42億8千万円、残り22億8千万円が市の負担。その後、国の過疎対策事業債の活用や県交付金3億3千300万円により、市の実質的負担は3億6千600万円。総事業費の5%。

Q 運用開始後の成果は？

A 魚の陸揚げ、競りから搬出までの高度衛生管理により安心安全な水産物の供給体制が構築され、巻き網船の入港回数や水揚げ量も増加傾向である。

Q 高額事業でもあり納税者に対し事業理解への広報の必要があるのでは？

A 見学会などに加え、ホームページでの発信や魚市場周辺へのPR看板の設置を検討する。

浜田港を支える給油船の未来へ向けた舵取り



肥後 孝俊

Q 浜田港給油船老朽化に対する支援策は？

A 給油船は浜田港のインフラに関わる重要な役割を担う。現在2隻体制で、3年以内の代替船の確保や更新費用の高騰などが課題。事業計画が示された段階で支援策について検討を行う。

Q 海域の違いなどで条件に合う中古船が見つからない。ゆえに事業計画が出せないのではないかと、中古船が見つからない場合に、どうするのか？

A 大変重要な問題だ。必要とあれば新船建造については県とも相談して支援するところまで申し入れをしている。船主から、今は中古船を探しているのので事業計画を出すのを待ってくれと言われている。

住み続けられるまちづくりを

時代に合った正確な災害情報の提供を!



村武 まゆみ

Q 能登半島地震の防災情報について、災害時すぐのJアラート、その次の防災情報では浜田市の状況が理解しにくかったと感じたがどう思うか？

A そう思う。今後は非常時においても分かりやすい情報内容を考えていく。

Q 浜田市ではハザードマップを作成している。今の時代、災害時にも多くの方がスマホを利用する。ヤフー防災アプリの避難所情報では浜田市の表示が大変少ない。ヤフー(株)と災害時に係る協定を結んでいるのであれば、正しい情報が提供されるようにするべきでは？

A 表示方法については研究していきたい。

(その他の質問項目)

・ 幼児教育センターの取組状況

郷土資料館建設予定地は、いったいどうなるの？



牛尾 昭

Q かねてから指摘しているが、浜田市世界こども美術館との合築が人口減少社会に適合し運営費の大幅減につながるのでは。

A 創作活動館のある美術館と資料館の一体化は望ましいが、神楽伝承館のこともあり、広く意見を伺う。

Q 駅に降り立つと正面に神楽時計があり、その向こうに神楽のアーチ、次に、銀天街どんちっちゃん、神楽モニユメント、アーケード下には演目の電飾看板があり、その先が三桜である。ここそが適地では。

A 石見神楽は浜田市が誇る伝統芸能であり八調子神楽発祥の地である。神楽伝承館の整備は、関係者の長年の願いであり専門委員会でも検討したい。

三桜酒造跡地整備方針の基本的な考え方を問う



村木 勝也

Q 提言書にある「検討にあたって配慮した事項」東公園と石中央文化ホールとの「配慮」と三桜酒造跡地における公共活用基本方針策定業務報告書における「具体的なシーン」の「必要」と「必要でない」ことが、どのように判断されて方針となったか。

A 東公園より気軽に活用できる場所、また、石中央文化ホールは千人規模よりも中規模程度なホールがあればとの意見に配慮した。また、報告書における「具体的なシーン」については、「必要」との意見にある、マルシェや多様なイベントをしている、雨の日でも子どもたちが屋内で楽しく遊んでいるといった意見を取り入れたものである。

何が原因か？職員のモチベーション低下!



川神 裕司

Q 市政発展のためには市民の意見反映と市職員のモチベーションの向上が鍵である。その中堅職員が令和5年度に15人も離職している状況をどう受け止めているか。

A ささまざまな理由を聞いていますが、根底には業務に対するモチベーションの低下があると感じる。

Q モチベーション低下の原因は、「過度の仕事量」と「職員の意見反映の機会減少」が大きいのではないか。

A 今後も効率化が図られるよう業務改善に努め、若手職員の施策協議の場への参加を増やすなど取組を強化していく。
(その他の質問項目)
・ 郷土資料館および神楽伝承施設の整備方針と課題

住み続けられるまちづくりを

地震対応は大丈夫か？

- Q** 災害情報を市民へ伝達する手法は？
- A** 浜田市では複数の手段による情報伝達が重要との観点から音声による防災行政無線を整備している。現在防災行政無線老朽化による更新時期を迎えており、設備およびアナログ電波からデジタル電波への切り替えを行うこととしている。
- Q** 地震発生時の一時避難所の設置基準は。
- A** 一時避難所は、自主防災組織や自治会などが、災害時に民間の施設に、一時的に避難するものである。島根県の洪水、土砂災害、津波など災害の種類によって、避難所の選択も必要である。津波、洪水に係る危険区域の見直しに伴うハザードマップの見直しを行う。



田畑 敬二

建物倒壊から命を守る部分的耐震化の方策を



震災記念之碑

- Q** 能登半島地震の犠牲になられた主な原因は？
- A** 建物の倒壊による圧死が41%、窒息や呼吸不全が22%である。
- Q** 命を守るための方策は。
- A** 個人の住宅の耐震化と家具の固定や家具の下敷きにならないようベッドの配置の見直しである。
- Q** 住宅耐震化がままならない状況では、部分的耐震改修や避難待機場所の耐震化も有効では。
- A** 命を守る方策として有効であると思う。都市建設部と検討してみたい。



岡本 正友

効率的で持続可能な交通体系の構築を

- Q** 利用者のニーズに合った地域交通の充実とは？
- A** 地域に応じた交通施策の実施と、定期路線で大量輸送が見込める民間路線バスや高齢者が必要とするドア・トゥ・ドア型輸送のタクシーを組み合わせ、今後も持続可能な公共交通を目指す。
- Q** 国土交通省においては、MaaSの普及に取組んでおり、すでに導入している自治体もあるがどうか？
- A** 複数の公共交通やサービスを組み合わせ、利便性の向上や地域の課題解決に資するものとして国が推奨していると認識している。導入に当たっては関係業者の協力や運用の仕組みづくりなどが必要。今後、調査研究を行い、実施に向け検討する。



沖田 真治

三桜酒蔵は浜田の貴重な歴史文化遺産！

- Q** 三桜酒蔵跡地活用についてあるべき未来像を描き、そこから逆算して事業実施をと思うが、市長の描かれる未来像は。
- A** 郷土資料館は、子どもたちに浜田に愛着を持ってもらい、将来、浜田に住んでほしいという思い。石見神楽伝承館は、神楽産業の技術の伝承、発信により多くの人が訪れ、地域経済に貢献してほしいという思いがある。
- Q** 例えば酒蔵リノベに当たり、集客にスターバックスを誘致し、石州瓦、石見焼、石州和紙、組子、地酒、どぶろく、地ビールなどオール浜田で関われば、経済流出も抑えられるのでは。
- A** 酒蔵をそのまま残すことは難しいが、前向きに捉えて議論していく。



西田 清久

住み続けられるまちづくりを

複合施設整備前に神楽振興の諸課題に対処を



布施 賢司

- Q 石見神楽伝承館整備の前に、各神楽社中や団体、神楽産業が抱えている諸課題に対処するのが先ではないか。
- A 各団体の意見を聞き、諸課題に対応していく。
- Q 後継者不足を解消するために、学校教育を通じて青少年への魅力発信が必要では。
- A 「ふるさと郷育」などの題材で取組んでいるが、学校教育だけでなく、神楽社中や地域と一緒に取組むことが重要。
- Q 三宮神社出演料の5万円は見直しが必要では。
- A 令和6年度から7万円に引き上げる予定。
- Q 慢性的な資金繰りの解決に自由度の高い基金を創設しては。
- A 多くの課題があり、今後の研究課題としたい。

地震から住まいを守る対策は



永見 利久

- Q 現在の耐震基準法は昭和56年に改正され、国は改正以前に建てられた住宅が震度6強から7程度の地震で倒壊しない耐震化を求めている。浜田市の現状は。
- A 市内の木造住宅は1万9千戸あり、耐震基準法改正以前の建物はその内約2割程度ある。
- Q 地震対策に向けた住宅補強対策は。
- A 木造住宅の耐震診断や耐震性がない建物の解体を行っている。
- Q 建物内に木造や鉄骨で安全な空間をつくり命を守る装置としてシェルターがある。各自自治体では、住宅補強対策として木造住宅耐震シエルト補助の事例がある。このことに対する市の考えは。
- A 支援策を、今後検討する。

気候変動に具体的な対策を

農業版BCP作成されている？



申崎 利行

- Q 気候変動の影響で自然災害が多発する中、「農業版BCP（事業継続計画書）」が重要視されている。災害時の緊急対応をあらかじめ決めておくもので、損害を最低限に抑え、事業の継続や早期再開につなげるのが目的だが、市の考えは。
- A 農業版BCPは、災害などの緊急事態において円滑な事業復旧・継続を可能とするため、令和4年4月の農業経営基盤強化促進法の改正に伴い導入され、作成を求められている。
- 近年では、水害や台風の影響が増加しており、また地震の発生リスクも高まっていることから、市としても生産者に対してBCPの作成を促している。

平和と公正をすべての人に

浜田をこどもにやさしいまちに



三浦 大紀

- Q こども基本法が施行された。こどもの権利をどう考えているか。
- A こどもは権利の主体。
- Q 浜田でこども・若者は意見表明をできているか。
- A 意見を聴く取組は行っているが、十分ではない。
- Q 意見形成・表明・実現それぞれの段階に応じたサポートが必要。大人には説明責任もある。職員研修も必要では。
- A こども基本法やこども大綱を職員全体にどう浸透させるかを考えたい。
- Q 市の各種計画では、こどもが支援や保護の対象にとどまっている。こども施策のビジョンを示しては。
- A 第三期子ども子育て支援事業計画は、こどもの視点に立つことを大事にして、各部署と内容を協議する。

市民対談

今回は、浜田医療センターで来院の方々と病院の橋渡しに努めておられるボランティアスタッフの方に、活動内容や関わられた動機などを伺いました。活動は深い思いで行われていることが分かり、「ボランティア」について再考する機会となりました。

(インタビュアー：川上 幾雄)

来院者と浜田医療センターの橋渡し 〜エプロン姿の病院ボランティアスタッフ〜

医療センター・ボランティア・はまだ会 長 久代 玲子さん
副会長 川方 まゆみさん

寄り添い・見守るサポート

「ボランティア・はまだ」はどのような団体でしょうか
久代 病院ボランティアとして平成14年に5人で



スタートし、現在10人で看護職経験者は4人、あとは一般の方です。現在のボランティアメンバーで新しいと言えば2、3

年前に参加された方です。過去最多で14人が参加していました。近くは旧市内、遠い方は金城からも参加されています。多いときはスタッフが3人体制で活動しています。私たちの行う仕事は、初診受付、再来機受付、病院内施設の案内、診療科への案内、中央処置室（採血）への同伴、エレベーター操作、待機患者などの話し相手、帰りのタクシー案内や紹介、玄関ホールの掃除など多岐にわたります。最近多くなった車いすの介助では、車から降りるときに家族の方を助け、車を駐車場に移動される間、患者さんの様子を見守るようなことも行っています。





右:久代 玲子(くしろ れいこ)さん

看護師として浜田医療センターに勤め、看護師長として定年退職後、がん相談支援センターでの再任用を経て、令和元年からボランティア活動を始める。令和3年から会長を務める。

左:川方 まゆみ(かわかた まゆみ)さん

浜田管内の学校にて事務職員として長年勤務され、平成23年からボランティア活動を始める。現在は副会長を務める。

入る部分が増えているので、「もっとメンバーが必要だ」と思うとともに、私も元気で長く参加したいと思っています。

川方 来院される方が、自分や患者の状況や介護の困難であったことなどを話されることもあり、それに対して私たちは耳を傾け、「そうですね。ほんとうですね」と言葉を添えうなずくなどして、少しでも介護されている



— 参加された動機は？

川方 私は看護師でもなく素人でしたが、過去にいろいろ医療センターでお世話になり、退職後フリーになったので、気持ちだけでもお手伝いできればと参加しています。

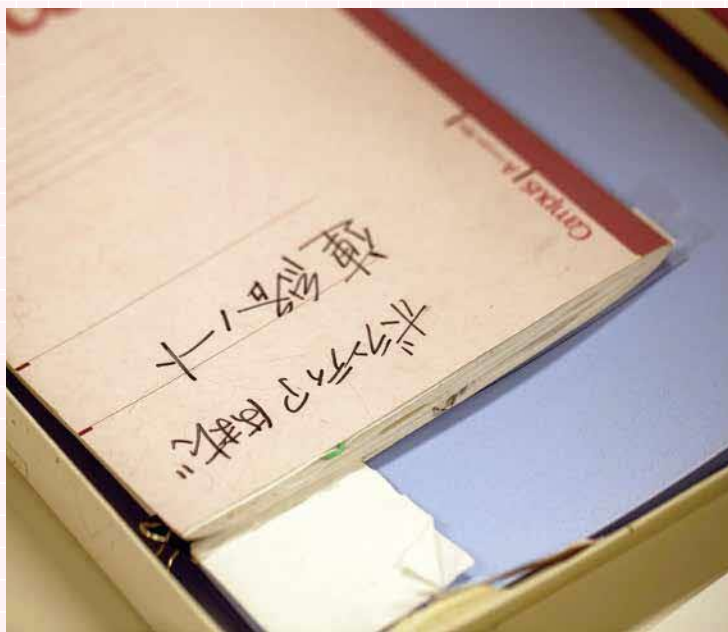
久代 私は看護師でしたが、定年後がん相談室に2年間在籍しているとき、健康の大事さをより切実に感じることもあり、自由になりたくて2年で辞めました。その後、自由ではありましたが、元気で今の歳を迎えていることで何かをしたいな、との思いから参加しました。

— 浜田医療センターとしての関わりは？

久代 浜田医療センターはボランティアスタッフに年2回の健康診断、保険加入、スタッフルームの提供などをしていただくとともに、患者さんに必要な環境改善に、私たちの意見が反映される体制もつくられています。

— 活動中の気付きや思いは？

久代 外来の患者さんの数は減っていますが、私たちがお手伝いして歩行器で歩かれる方の介助や、車いす介助で案内するようの方が増え私たちが介



方の気持ちも落ち着けばと、寄り添うようにしています。

久代 初めて来院された方は、どこに行ったらいいのかなと不安だと思います。そのようなときは相手の話を聞きとり、受診される方が迷わず安心・安全に行けるように案内しています。

— 病院ボランティアで大事なことは？

久代 声をかけることも大事ですが、おせっかいにならないよう、患者さんの話や介護している方の悩みを聞き受けるこ

とが必要です。私たちの介助を必要とされない方もおられるので、見守るといって寄り添い方・サポートも大事です。

— 今後の課題は？

久代 課題はボランティアスタッフの高齢化と新規の参加者がいないことです。ボランティア活動は個人の自発的な活動で、自分ができることを、できる時間に、無理をせず実施することを大切にしていますので、多くの方が誘い合って参加されるようお願いいたします。

できる人が、できる時に、できる事を

協働のまちづくり推進特別委員会



これまでの特別委員会の取組

令和3年4月から「浜田市協働のまちづくり推進条例」が施行され、地域拠点が公民館からまちづくりセンターへ変わりました。新たな取組が開始されましたが、市民から戸惑いや不安の声が聞かれ、浜田市議会として特別委員会を設置し、調査・研究を行いました。左の写真のように、現場の声を聞くことやオンラインでの勉強会を重ねた結果として、それらをまとめた提言書を令和6年2月に市長へ提出しました。提言書の詳細はこちらからご覧ください。

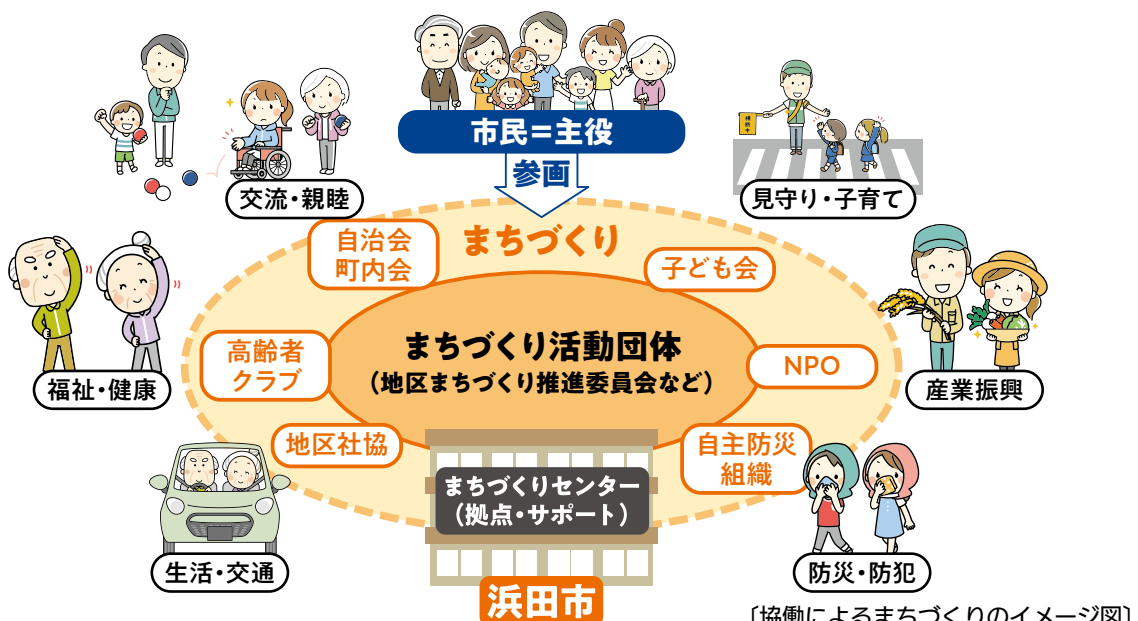


委員会からのメッセージ

「協働」とは誰かがやるのではなく、誰もがやる。相手の立場や違いを尊重し、「できる範囲で、できる人が、できる時に、できる事を」やる。将来にわたってあらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができる社会の実現に向け、同じ目的のために、共に考え行動し、個の力を結集しみんなの力で、私たちが暮らす地域をより住みよくしていきましょう。

協働のまちづくり推進特別委員会は市長に対し提言を提出したことをもって調査終了とし、令和6年3月に廃止となりました。

しかしそこで「協働」が終わるわけではありません。引き続き、浜田市議会議員全員で協働のまちづくりが進むよう、注視していきます。



地域井戸端会開催のお知らせ

今年も地域井戸端会を開催します。今回も開催会場を全28会場とし、議員が3人1組で各地域を回ります。各常任委員会（総務文教・福祉環境・産業建設）が皆さんに伺いたいテーマは以下のとおりです。また、それ以外にも、自由にご意見・ご要望を伺う時間もありますので、暮らしの中での気付きや思いをお聞かせください。頂いた意見はそれぞれの委員会活動に生かし、各委員会で協議し総括的にまとめた内容を実施会場に掲示する予定です。たくさんのご参加をお待ちしております。



- 総務文教 **地域交通について ～移動の自由をどうつくるか～**
- 福祉環境 **市の環境施策や環境に配慮した市民活動の在り方について**
- 産業建設 **地域産業の問題点と課題について**

会場名	日時
大麻まちづくりセンター	5月11日(土) 18:30～
浜田まちづくりセンター	5月13日(月) 18:30～
石見まちづくりセンター	5月14日(火) 18:30～
国府まちづくりセンター	5月16日(木) 18:30～
長浜まちづくりセンター	5月17日(金) 18:30～
周布まちづくりセンター	5月17日(金) 18:30～
子育て世代包括支援センター(すくすく)	5月18日(土) 10:00～
二反田団地集会所	5月21日(火) 18:30～
美川まちづくりセンター	5月23日(木) 18:00～
小国まちづくりセンター	5月15日(火) 18:30～
雲城まちづくりセンター	5月18日(土) 18:30～
美又まちづくりセンター	5月20日(月) 18:30～
波佐まちづくりセンター	5月21日(火) 18:30～
今福まちづくりセンター	5月23日(木) 10:00～
久佐まちづくりセンター	5月28日(火) 18:30～

会場名	日時
木田まちづくりセンター	5月14日(火) 18:30～
今市まちづくりセンター	5月16日(木) 18:30～
和田まちづくりセンター	5月20日(月) 18:30～
市木まちづくりセンター	5月21日(火) 18:30～
都川まちづくりセンター	5月26日(日) 10:00～
杵束まちづくりセンター	5月23日(木) 18:30～
安城まちづくりセンター	5月29日(火) 18:30～
三隅まちづくりセンター	5月14日(火) 18:30～
岡見まちづくりセンター	5月14日(火) 18:30～
井野まちづくりセンター	5月16日(木) 18:30～
白砂まちづくりセンター	5月24日(金) 18:30～
三保まちづくりセンター	5月25日(土) 18:30～
黒沢まちづくりセンター	5月28日(火) 18:30～

※出席議員は、市議会ホームページや最寄りのまちづくりセンターへの掲示などでお知らせします。



祝 議会改革度調査2023 浜田市議会が全国13位!

この調査は、早稲田大学マニフェスト研究所が議会改革の取組状況や傾向を把握することを目的として毎年実施されており、14回目となる今回は、能登半島地震で被害を受けた4自治体を除く都道府県議会および市区町村議会の計1,784議会を対象に実施され、87.6%に当たる1,562議会が回答をしています。

「情報共有」「住民参画」「機能強化」の3分野を軸とした全57問の調査項目を数値化し、各議会の取組の度合いの高い方から順位化されています。

浜田市議会は個別順位で、情報共有が昨年27位から7位、住民参画が98位から20位、機能強化が42位から24位にランクアップし、幅広い分野で議会改革に取組み、島根県内はもちろん、中国・四国・九州地方の全議会の内2年連続で1位、全国では13位という高順位となりました。議会改革の取組の詳細は、市議会ホームページで公開しておりますのでぜひご覧ください。引き続き、議員一同、市民のための議会改革に取組んでまいります。

浜田市議会の特徴的な取組

- **情報共有**～各種会議の開催日時や会議資料の事前公開および会議の録画配信、各議員の議案等に対する賛否および反対理由の公開
- **住民参画**～県立大学生や関係団体との意見交換会、議会報告会、はまだ市民一日議会などの実施
- **機能強化**～オンライン委員会の開催や自由討議の実施

レポート



総務文教委員会

取組課題の検討

現在、所管する分野の中から、サン・ビレッジ浜田アイススケート場の今後の在り方、石見神楽伝承に関する検討など、取組むべき課題の絞り込みを行っています。いずれも重要な課題ですが、並行して、今後増加が見込まれる運転免許の返納に伴う通院や買い物の手段を確保していくことが委員会として調査研究すべき課題であると考えています。このため、令和6年5月から6月にかけて実施する地域井戸端会において、当委員会は「地域交通について～移動の自由をどうつくるか～」というテーマを設定し、市民の皆さまからご意見を伺いたいと考えています。皆さんの地域にとってベストな交通手段とはどのようなものか、ぜひお聞かせください。多くのご参加をお待ちしております。

産業建設委員会

三桜酒造跡地活用などで連合審査会 (産業建設・総務文教)

三桜酒造跡地活用などについて、当委員会と総務文教委員会は委員会条例の規定に基づき、当委員会を主たる委員会として連合審査会を開き、執行部報告を受け質疑を行いました。

報告は跡地活用に加えて、建て替え検討中の浜田郷土資料館、新たな検討として石見神楽伝承館および多目的ホールの設置、伝統文化の継承や観光効果、これまでの経緯などを含めた内容であり、施設設置の必要性について説明がありました。

委員は跡地活用、施設建設の検討状況、財政対応、文化としての考え方、検討委員会の提言などについてだけでなく、そこから浮かび上がる解決すべき多くの事柄について質疑しました。



議会広報広聴委員会

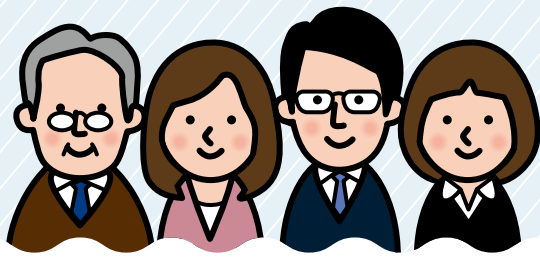
島根県立大学生と意見交換会を実施

1月17日、浜田市まちなか交流プラザにおいて島根県立大学生と議員の意見交換会を行いました。今回の意見交換会は「はまだ協働学舎ファンタス」からの提案で、大学とのコーディネートや当日の進行もしていただきました。

地域政策学部の角ゼミの学生13人と議員19人が5グループに分かれ、学生からの質問を受けながら和やかな雰囲気での始まりました。市内のバスの増便や大学線の発着時刻、大学周辺にスーパーやコンビニがないこと、産婦人科の地域医療体制などの意見があり、議員は浜田市の現状や意見を述べ、どのテーブルも活発な議論が交わされていました。

学生からは「日頃議員と出会う場もなかったが、議員と話せたことで身近に感じた」「自分たちの声が届いていないことに気付いたので、ちゃんと発信していきたい」などの感想がありました。学生の率直な意見を聞くことができ、有意義な時間となりました。





委員会活動

福祉環境委員会

取組課題のテーマに関する視察を実施

当委員会は「カーボンニュートラルの推進」および「健康寿命の延伸」に関してテーマを絞り、2月20日から21日にかけて行政視察を実施しました。

まず、「名探偵コナンに会える町」として知られる鳥取県北栄町に伺い、「2050年北栄町脱炭素ロードマップ」「健康寿命延伸施策としての住宅改善（健康省エネ住宅）」について説明を受け意見交換を行いました。先進自治体の取組から多くの考え方を学びました。

また、島根大学医学部附属病院総合診療医センターとの意見交換を実施しました。担当の坂口医師から、浜田市の医師数、総合診療医不足、今後の地域医療の方向性などのコメントがありました。講演を受ける形ではなくワークショップ形式で進められ、委員と坂口医師との積極的な意見交換により浜田市の地域医療の課題を真剣に考える貴重な時間となりました。

最後に株式会社イーグリッドにて、全国的な先進事例としての「医療Ma a S」に関して意見交換を行いました。医療Ma a Sは中山間地医療をICT×車両のシステムを活用して解決を目指すものです。その実証実験に関わるイーグリッドの取組はとても参考になりました。

今回の視察に大きな成果を感じました。



議会運営委員会

地域医療の問題点とこれからの展望について

身近な喫緊の課題である「地域医療」について、改めて現状を認識するとともに、今後の地域医療の在り方について理解を深めることを目的として2月14日、島根県立大学の山下一也理事長を講師に迎え議員研修会を行いました。研修では浜田圏域の医療の状況や今後の展望、地域における島根県立大学の在り方について具体的な事案を交えて説明を受けました。中山間地域における医療については、医療機関への交通手段の不自由さが重症化のリスクを高めていることや医師不足についての実態、診療看護師の育成、情報技術活用による今後の医療の可能性など動画を交え分かりやすく講演いただきました。

一人一人が普段の議員活動を振り返り、地域医療について実情と照らしながら考え、今後の展望についても共通認識を持つことや今後の議員活動におけるヒントを得ることができました。また、浜田市議会と島根県立大学との連携の推進についても再確認する機会となりました。今後も研修を重ね、引き続き資質向上を図っていきます。





議長からのメッセージ

こんにちは、議長の笹田です。今回は、令和6年3月定例会議についてお話しします。市は、令和6年度浜田市一般会計予算に「三桜酒造跡地及び神楽・歴史施設基本計画策定事業」として、石見神楽伝承施設と浜田郷土資料館を併設し、両施設の設置場所を3カ所の候補地から検討するという事業（予算規模は約2,384万円）を提案予定でした。しかし、2月6日の全員協議会で議員から多くの質疑があり、議員間でも自由討議を行った結果、市は議論が不足していると判断し、「石見神楽伝承施設展示等内容検討事業」に事業名を変更し、また予算額も伝承施設の展示・内容を検討する委託費などとして約651万円に減額し、当初予算として提案することに変更されました。その後、全員協議会、個人一般質問や浜田市議会石見神楽振興議員連盟との意見交換を踏まえ、3月4日の本会議前に「石見神楽伝承内容検討事業」として、施設の中身を検討するのではなく、あくまでも内容や機能、手法などを検討するという事業内容に再度変更されました。

この短期間に事業名や事業内容の変更が複数回なされたわけですが、議会の意見を聞いた上での変更ということで、議会のチェック機能が正常に働いた結果であると考えます。

最終的に予算案は可決されましたが、議会の混乱のみならず、市民の混乱も招いたとして、4点の事項について附帯決議が可決されました。附帯決議の内容は4ページに記載しています。

引き続き、市民から必要とされ信頼されるよう、21人の議員で最大限努力してまいります。

6月 定例会議の 予定

- ・6月17日(月) 開会
- ・6月18日(火)～6月21日(金) 一般質問

ぜひ傍聴にお越しください。
※日程は変更になる場合があります。

次号 (Vol.74) は
9月1日発行予定です。

はまだ議会だより miniも 見てね

4月1日の28号はご覧いただけましたでしょうか。miniは浜田市議会ホームページにウェブ版として掲載していますのでぜひご覧ください。

次号は6月1日に発行予定です。

表紙について

大盛況で閉会した第27回のアンデパンダン展。浜田のこどもたちの作品もたくさん展示されていましたね。こちらは、この展覧会で展示されたフランス児童の作品「アレス」。楽しい雰囲気伝わってきます。浜田市世界こども美術館では5月26日まで、「アートで脳トレ ひらめき美術展」を開催中。《謎解き》と《脳トレ》に挑みながら楽しめるアート展です。

編集委員

委員	副委員長	委員長
村武まゆみ	村木勝也	肥後孝俊
大谷学	三浦大紀	沖田真治
川上幾雄	川上幾雄	上野茂
西田裕司	西田裕司	神田裕司

あとがき

この季節は新緑が何とも言えず美しい。深呼吸をすれば体内にエネルギーを補給した気持ちになる。新春から主役、脇役で人々のまなざしと心を和ませてくれている花々のおかげでしょうか。梅・山茶花・椿・水仙・桃・桜・藤・ツツジなどさまざまな色や匂い、散り際の潔さや粘り強さ、毎年いろいろ個性で咲き誇り、季節感を無言で発信するお次の花へと譲り合う？この繰り返しを何十年もしてきましたが、同じ季節は一度もありませんでした。

(記 西田 清久)

この「はまだ議会だより」も毎回新鮮で、同じ内容は一度もありませんよ(笑)

★この議云たよりは一部当たり43・53円(税込)です。